

平成 21 年 0 3 月 3 1 日現在

研究種目：基盤研究（B）
 研究期間：2005-2008
 課題番号：17320132
 研究課題名（和文）北海道・東北各地所蔵の幕末蝦夷地陣屋・困郭に関する絵地図の調査・研究
 研究課題名（英文）Investigation into old pictorial maps of fortified camps in Ezo Province at the end of Tokugawa Shogunate owned by many collections in Hakodate and Tohoku district.
 研究代表者
 戸祭 由美夫（TOMATSURI YUMIO）
 奈良女子大学・文学部・教授
 研究者番号：60032322

研究成果の概要：

幕末に蝦夷地警備のために幕府直轄の箱館奉行所や東北諸藩の陣屋が蝦夷地の海岸部の各地に建設された。本研究では、それにもなって作製された多種多様な絵図類が各地に未整理のままに保存されていることに着目し、函館・弘前・八戸・十和田・盛岡・仙台・秋田・鶴岡・会津若松 9 都市 12 機関で関係絵地図の調査を行い、所蔵機関ごとないし所蔵機関相互の絵地図の関係・系統を解明し、地図学史・歴史地理学の研究に寄与した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	3,500,000	0	3,500,000
2006年度	4,000,000	0	4,000,000
2007年度	4,200,000	1,260,000	5,460,000
2008年度	3,000,000	900,000	3,900,000
年度			
総計	14,700,000	2,160,000	16,860,000

研究分野：歴史地理学

科研費の分科・細目：人文地理学・人文地理学

キーワード：絵図、古地図、陣屋、蝦夷地、幕末、歴史地理学、地図学、地域貢献

1. 研究開始当初の背景

(1) 従来の科研費補助金による研究代表者
 [戸祭] の本科研に関わる研究成果

①平成 6～9 年度の基盤研究(A) (2) 「ユーラシアにおける都市困郭の成立と系譜に関する比較地誌学的研究」(戸祭ほか 11 名、課題番号：06401017) ……報告書 (平成 10 年 3 月刊、271 頁)

②平成 13～16 年度の基盤研究(A) (2) 「中国文明のフロンティアゾーンにおける都市的

集落の発生と変容—その比較地誌学的研究—」(戸祭ほか 11 名、課題番号：13308003) ……報告書 (平成 17 年 3 月刊、378 頁)

(2) 上記以外の研究代表者 [戸祭] の本科研に関わる研究成果

幕末蝦夷地の箱館奉行所および東北諸藩の陣屋に関して、学会での研究発表を行うとともに、下記の研究論文を公表してきた。

①幕末に建設された北海道の困郭—五稜郭

の囲郭プランのもつ意義の探求一。(足利健亮先生追悼論文集編纂委員会編『地図と歴史空間』, 大明堂, 2000年)

②箱館奉行所方形囲郭に関する近代以降の跡地利用。『歴史地理学』44-1, 2002年。

③空中写真に見る箱館奉行所跡地利用の変化。(相馬英廣編『高解像度の衛星画像・衛星写真を用いた環境変化の解析』平成11~13年度科研報告書, 2002年)

その過程で、イ) 函館市中央図書館(当時は市立函館図書館)所蔵の幕末蝦夷地関係絵図の閲覧・写真撮影、ロ) 函館市内の官公庁作製の各種の未公開地図類や資料の閲覧とコピーの収集、ハ) 函館市以外の陣屋跡地所在市町村役場の社会教育担当者との情報交換、ニ) 仙台藩白老元陣屋資料館をはじめとする道内の博物館・図書館・資料館での関係資料の収集、ホ) 盛岡市中央公民館での南部盛岡藩関係の幕末蝦夷地陣屋絵図の閲覧・写真撮影など、着実に本科研に向けての準備を行ってきた。

(3) 本科研に関わる共同研究メンバーの結成

上記のような研究経歴を踏まえ、戸祭は本科研の研究課題に相応しい研究歴を有する下記のメンバーに呼びかけて共同研究グループを結成した。その際、特に留意したのは次の3点である。

[ア] 近世蝦夷地に関する絵図の研究・調査経験を有すること

[イ] 東北地方の近世絵図に関する研究・調査経験を有すること

[ウ] 絵図の画像データに関するコンピュータ処理の経験を有すること

なお、この共同研究を通じて近世絵図ないし歴史地理学に関する若手・中堅の女性研究者の育成も目指している。

2. 研究の目的

(1) 解明しようとする事項

① [幕末蝦夷地関係絵図が作成された歴史的背景] 江戸時代後半の欧米列強による極東・北太平洋海域への進出に対抗して、江戸幕府は蝦夷地防衛のために、a) 幕命による蝦夷地の探検・調査、b) 松前藩からの蝦夷地上知による幕府直轄当地とそれに伴う箱館奉行の新置、c) 東北地方6藩に対する蝦夷地沿岸部防備のための陣屋の建設・維持の下命、などを行った。上記のb) c) に基づく奉行所や陣屋の建設にあたっての詳細な設計図や完成図、あるいは沿岸部の簡易測量図や鳥瞰図が作製され、また手写された。幕府関係者や各藩の蝦夷地派遣者によって作製・手写されたこれらの絵図は極めて多数かつ多種に及んだ。

② [幕末蝦夷地関係絵図の所在・整理の現状] 現在、これら多種・多様な幕末蝦夷地関係絵図は、幕府箱館奉行所の置かれた函館市をはじめ、蝦夷地防備に派遣された東北諸藩の所在地の図書館・博物館・資料館・公文書館、あるいは北海道大学北方資料室や国立公文書館などに、所蔵・保管されている。しかし、a) 国の特別史跡に指定されている五稜郭を除いて、東北諸藩によって新設・維持された陣屋などの防衛囲郭・施設は、明治維新により短期間で放棄されたことから、地元民からも幕末史の研究者からも等閑視されてきた。また b) それらに関する絵図類があまりにも多種多様であった。

そのため、これらの幕末蝦夷地関係絵図は、市立函館図書館(現在の函館市中央図書館)所蔵絵図が地元の篤志家によってカラー図版として刊行されているほか、綿密な調査・整理と詳しい目録の作成や図版の刊行などは一部で端緒に就いたのみで、目録も未整理な場合や絵図グループ単位の一括名称での目録登録である場合が多い。

③ [絵図の現地調査] 以上のように現状を

踏まえて、本共同研究では、函館市中央図書館をはじめ、弘前市立弘前図書館、弘前市立博物館（以上、津軽弘前藩関係）、八戸市立図書館（南部八戸藩関係）、十和田市立新渡戸記念館、盛岡市中央公民館（以上、南部盛岡藩関係）、宮城県図書館（伊達仙台藩関係）、秋田県公文書館（佐竹秋田藩関係）、致道博物館、鶴岡市立図書館（以上、庄内鶴岡藩関係）、会津若松市立会津図書館（会津若松藩関係）などの当該絵図所蔵機関に赴き、各機関のご協力・ご理解を得て、a) 絵図の実物を閲覧するとともに、b) 統一的な絵図調査一覧票に内容を整理する。さらに、c) 調査メンバーによるデジタル写真撮影のほか、d) 必要に応じて専門業者による精密なデジタル tif 画像化して CD/DVD を作製する。

④ [絵図の整理と系統的解明] 以上の現地調査によって得られた詳細なデータを、所蔵機関ごとに一覧表形式に整理し、所蔵機関ごとに絵図を比較検討し、ついで異なる機関に所蔵されている同種・同名の絵図を比較検討することで、ア) 原図はどれで、手写図はどれか、イ) 原図の中でも下図と完成図はどれか、ウ) どのような経緯で完成図が作成され、あるいは手写されたのか、といった絵図の書誌的検討を行い、相互の特徴と系統を明らかにする。

(2) 研究の意義

上記のような現地調査による幕末蝦夷地関係絵図の詳細な一覧の作成とそれに基づく絵図相互の比較検討による系統の解明、及びデジタル画像情報としての絵図の保存は、以下の点で今後の学術的な研究の進展に少なからぬ意義を有すると考えられる。

- ① 従来等閑視されてきた同絵図の地図学史からの書誌的基礎研究
- ② 幕末の蝦夷地に関する歴史地理学的研究
- ③ 北海道・東北地方の近世史、特に幕末・維新

史研究

また、以下の点で地域・社会貢献にも資すると考えられる。

- ④ 所蔵機関へのデジタル画像 CD/DVD セットの一括寄贈により、各機関による絵図データの公開に役立てる
- ⑤ 地元郷土史への資料提供
- ⑥ 地元住民対象とした公開講座・講演の実施

3. 研究の方法

(1) 平成 17 年度

本年度の研究実施計画に基づいて 5 月に具体的な調査計画を立てた。しかし、最初に訪れる予定であった函館市中央図書館（当時は市立函館図書館）が新築移転のために 8 月に絵地図調査に赴けなくなったため、10 月までの期間を基本的な研究調査資材・資料の購入と現地調査の準備・連絡に当てた。11 月に盛岡市中央公民館へメンバー 5 名全員で赴き、館蔵の関係絵地図を閲覧して内容を整理するとともに、主要な絵地図のデジタル撮影を地元の専門業者に委託した。1 月には函館市中央図書館にメンバー 3 名で赴き、館蔵の関係絵地図を閲覧して内容を整理し、主要な絵地図のデジタル撮影を道内の専門業者に委託した。

(2) 平成 18 年度

初年度（平成 17 年度）に引き続いて、本年度は 4 月に函館市中央図書館（メンバー 2 名）、5 月に宮城県図書館と東北大学附属図書館（メンバー 5 名）、8 月に弘前市立弘前図書館（メンバー 4 名）、9 月に会津若松市立会津図書館（メンバー 1 名と補助 1 名）、10 月に弘前市立博物館（メンバー 2 名）と、研究対象とする幕末絵地図の所蔵機関に出張し、閲覧・写真撮影した。そのうち、函館市中央図書館・宮城県図書館・弘前市立弘前図書館・会津若松市立会津図書館の所蔵絵図については、地元の専門業者に写真撮影を委

託し、デジタルデータ化した。また、昨年度の調査成果の中間報告を5月の東北地理学会春季大会で、会津若松での調査成果の中間報告を11月の人文地理学会大会で、弘前での調査成果の中間報告を3月の日本地理学会春季大会で、それぞれ発表した。

(3)平成19年度

平成18年度に引き続いて、研究メンバーが共同であるいは単独で、研究対象とする幕末絵地図を所蔵する以下の機関へ出張し、関係の絵地図を閲覧・写真撮影した。〔4月に八戸市立図書館と十和田市立新渡戸記念館へ(メンバー1名)、6月に弘前市立弘前図書館へ(メンバー1名と補助1名)、8月に十和田市立新渡戸記念館へ(メンバー4名と補助2名)、9月に秋田県公文書館へ(メンバー3名)、11月に北海道大学へ(メンバー1名)。〕また、宮城県図書館・八戸市立図書館・秋田県公文書館・会津若松市立会津図書館の所蔵絵地図について、地元の専門業者に写真撮影を委託し、デジタルデータ化した。以上の調査・研究の成果の一部を11月の人文地理学会大会で口頭発表するとともに、大会会場の関西学院大学で研究打ち合わせ会を開き、次年度で終了する本科研共同研究の今後の活動予定と報告書作成方針について詳しい協議を行った。

(4)平成20年度

最終年度である本年度は、以下のような活動を行った。5月に歴史地理学会大会(東北地理学会と共催)で口頭発表するとともに、大会期間中に昨年度までに未調査の庄内鶴岡藩関係の絵図を所蔵する(財)致道博物館および鶴岡市立図書館にメンバー1名が赴いて、所蔵の絵図を閲覧・写真撮影した。6月にかつて収集・整理したデータを確認・補充すべく、盛岡市中央公民館へメンバー1名が赴き、岩手大学学生諸君の補助を得て作業

を行った。

10月の日本地理学会・東北地理学会合同大会で口頭発表するとともに、盛岡市中央公民館へメンバー2名が赴き、6月実施の調査の2度目のデータ補充を行った。同10月に、函館市中央図書館に研究代表者が赴き、同館で開催の平成20年度「郷土の歴史講座」特別編で「絵地図にみる幕末箱館奉行所亀田土塁」と題する講演を行った。聴衆は100名を超え、函館新聞及び北海道新聞に計3回にわたって紹介記事が掲載された。また、研究分担者は各自に配分された経費を使用して、報告書掲載用の論文作成のために出張などを行った。さらに、5月には日本国際地理学会機関紙『地図』へ、8月には歴史地理学会機関紙『歴史地理学』へ、それぞれ研究メンバーの連名で研究成果を投稿し、後者は同誌51巻1号に掲載された。3月2日に奈良女子大学で研究集会を開催し、研究メンバー4名による研究発表のほか、平川一臣氏(北海道大学大学院地球環境科学研究院)による講演「北海道の幕末陣屋跡地の地形環境」がなされた。以上のような本科研4年間の研究成果を盛り込んだ報告書〔I. 総論 II. 各論(7篇) III. 東北地方各地の12機関に所蔵されている幕末蝦夷地関係絵図一覧 IV. 別添カラー図版〕を代表者の戸祭由美夫が編集し、3月に刊行した。

4. 研究成果

(1)盛岡市中央公民館所蔵の南部盛岡藩蝦夷地関係絵図資料は極めて多種多様であるが、同じ名称・内容の絵図に関する詳細な検討の結果、3種の系統に大きく分けられることが判明した。

(2)函館市中央図書館所蔵の蝦夷地関係絵図資料も極めて多種多様であるが、明治以降の購入・書写により収集されたものも多いことが判明した。

(3)十和田市立新渡戸記念館所蔵の蝦夷地関係絵図資料は、安政2年南部盛岡藩派遣蝦夷地調査団次席責任者たる新渡戸十次郎所蔵のもので、盛岡市中央公民館・函館市中央図

書館の2館所蔵絵図のなかに同じ名称・内容のものがある。

(4)同館所蔵の新渡戸十次郎作成「松前持場見分帳」の詳細な分析から、上記の派遣団の当時の足跡が明らかとなった。

(5)上記の南部盛岡藩派遣蝦夷地調査団の末席に位置する長澤文作こそ、蝦夷地に関する絵図の製作者として知られる長澤盛至と同一人物であると推定され、測量図作成の任務を担って派遣されたと考えられる。

(6)弘前市立弘前図書館所蔵の津軽弘前藩関係蝦夷地絵図資料の中の「箱館千代台陣屋取立之図」と総称される絵図グループから、箱館千代台陣屋の建設過程が判明した。

(7)秋田県公文書館所蔵の秋田藩蝦夷地関係絵図資料も多種多様であるが、従来作者不明とされてきた「マシケ御陣屋御任地境内略図」は、藩より蝦夷地に派遣された長瀬直温によって安政3-4年に作製されたものと推定される。

(8)幕末の箱館に建設された五稜郭・箱館水元陣屋・箱館千代台陣屋について、関係の絵図を下にGIS手法を用いて現在の地図にその位置を精確に復元することができる。

(9)松前城下に関する絵図に関して、函館や東北地方各地の機関に所蔵されていると九州地方の諸藩が所蔵していたものとを比較検討すると、それらの作製時期・目的が推測可能となる。

(10)複数の藩で同じ名称・内容をもつ絵図が存在することに対して、本研究当初にはスパイなどによる秘密裏の書写の可能性も考えていたが、そのような行為はなかったようである。

(11)以上のような研究成果は、従来省みられることの少なかった幕末蝦夷地関係絵図に関して、地図学史の面でも、歴史地理学の面でも、研究成果そのものの点のみならず、資料そのものの発掘という点でも大いに有益であると信ずる。

(12)各地の所蔵機関の絵図類を実際に閲覧・撮影し、報告書の中で29ページに及ぶ一覧表の形で整理するとともに、主要な絵図類の専門業者にデジタル画像をCD/DVDの形で取りまとめ、さらに函館市では市民に成果を講演したことで、地域社会への貢献も果たすことができた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計1件)

- ①戸祭由美夫・出田和久・平井松午・小野寺淳・中西和子「十和田市立新渡戸記念館所蔵の幕末蝦夷地関係絵図の書誌的検討」,

『歴史地理学』, 51-1, 37-53, 2009, 査読アリ.

[学会発表] (計7件)

- ①戸祭由美夫「盛岡市中央公民館所蔵の南部盛岡藩幕末蝦夷地関係絵図の分類試案」, 日本地理学会・東北地理学会, 2008年10月5日, 岩手大学.
- ②村上由佳 (ほか1名)「安政2年における盛岡藩の蝦夷地持場の見分に関する予察—「松前持場見分帳(十和田市立新渡戸記念館所蔵新渡戸家文書)」の分析から」, 日本地理学会・東北地理学会, 2008年10月5日, 岩手大学.
- ③戸祭由美夫 (ほか4名)「幕末蝦夷地に関する南部盛岡藩作成絵地図について—3所蔵機関(盛岡市中央公民館・函館市中央図書館・十和田市立新渡戸記念館)の同種絵地図の比較検討—」, 歴史地理学会, 2008年5月18日, 仙台市戦災復興記念館.
- ④戸祭由美夫 (ほか4名)「弘前市立弘前図書館所蔵の幕末箱館千代台陣屋関係絵地図について」, 人文地理学会, 2007年11月18日, 関西学院大学上ヶ原キャンパス.
- ⑤戸祭由美夫 (ほか3名)「弘前市立弘前図書館所蔵絵地図にみる箱館千代台陣屋プランの変化」, 日本地理学会, 2007年3月20/21日, 東洋大学本部キャンパス.
- ⑥中西和子 (ほか1名)「幕末期会津藩の蝦夷地における経営領域—京都守護職との関連をめぐって—」, 人文地理学会, 2006年11月12日, 近畿大学本部キャンパス.
- ⑦戸祭由美夫 (ほか4名)「盛岡市中央公民館所蔵の幕末蝦夷地陣屋関係絵地図について」, 東北地理学会, 2006年5月20日, 仙台市戦災復興記念館.

[図書] (計1件)

- ①戸祭由美夫[編], 奈良女子大学, 『北海道・東北各地所蔵の幕末蝦夷地陣屋・囲郭に関する絵地図の調査・研究』, 2009, 190頁.

〔産業財産権〕

○出願状況（計0件）

○取得状況（計0件）

〔その他1：一般市民対象の講演〕

①戸祭由美夫「絵地図にみる幕末箱館奉行所
亀田土塁」,平成20年度「郷土の歴史講座」特
別編,2008年10月26日,函館市中央図書館.

<次頁の新聞記事切抜きを参照>

〔その他2：新聞掲載〕

① 函館新聞（朝刊）2008年10月25日（土
曜）掲 載

② 北海道新聞（朝刊）2008年10月25日
（土曜）掲 載

③ 函館新聞（朝刊）2008年10月28日（火
曜）掲 載

6. 研究組織

(1) 研究代表者

戸祭 由美夫 (TOMATSURI YUMIO)

奈良女子大学・文学部・教授

研究者番号：60032322

(2) 研究分担者

出田 和久 (IDETA KAZUHISA)

奈良女子大学・文学部・教授

研究者番号：40128335

平井 松午 (HIRAI SHOGO)

徳島大学・総合科学部・教授

研究者番号：20156631

小野寺 淳 (ONODERA ATSUSHI)

茨城大学・教育学部・教授

研究者番号：90204263

米家(山田) 志乃布 (KOMEIYE<YAMADA>
SHINOBU)

法政大学・文学部・教授

研究者番号：30272735

中西 和子 (NAKANISHI KAZUKO)

奈良女子大学・人間文化研究科・博士研究
員

研究者番号：60379526

(3) 連携研究者

(なし)

(4) 研究協力者

村上 由佳 (MURAKAMI YUKA)

奈良女子大学・人間文化研究科・博士研
究員

中尾 千明 (NAKAO CHIAKI)

奈良女子大学・人間文化研究科・博士後期
課程・院生